D．誤文。ミトコンドリアも葉緑体も，リン脂質の二重層は失っていない。

33．C．誤文。複製起点を複数もつのは真核生物の特徴である。

D．誤文。(う)生物は多細胞生物である。鞭毛虫類，渦鞭毛藻類は単細胞生物である。

E．誤文。菌類は単細胞生物と多細胞生物を含む。

34．⑤誤文。バクテリオクロロフィルをもつ光合成細菌ではなく，クロロフィルaをもち，酸素発生型の光合成を行うシアノバクテリアである。

35．⑤誤文。「図2のA，Bの時代に海中で繁栄していた光合成を行う(い)生物」とは藻類である。クチクラ層は，陸上植物が乾燥から内部組織を守るために獲得したもので，藻類にはない。

36．A．誤文。クックソニアの化石はB（オルドビス紀）ではなくC（シルル紀）の時代のものである。

D．誤文。クックソニアは維管束をもたない。

E．誤文。リニアは葉も根ももっていない。

37．シルル紀に植物が陸上に進出し，続くデボン紀には動物が陸上進出を果たした。それが節足動物の昆虫類と，脊椎動物の両生類である。

38．③誤文。G・H・Iは中生代であり，種子植物である裸子植物が繁栄した。胞子体が発達し，配偶体が胞子体内に形成されるようになった。

39．①誤文。J（古第三紀）以降に反映したのは被子植物である。被子植物は，胚のう中の卵細胞と中央細胞がそれぞれ別々の雄性配偶子と受精する重複受精を行う。

40．A．誤文。アウストラロピテクスは，直立二足歩行を行っていたことが確実視されている。

D．誤文。インドネシアのジャワ原人や中国の北京原人など，アジアでも見つかっている。

国語

1

出典　池澤夏樹『科学する心』〈第四章　進化と絶滅と哀惜〉（集英社インターナショナル）

解答

問1　a―②　b―③　c―①　d―⑤　e―③

問2　③

問3　④

問4　④

問5　③

問6　②

問7　⑤

問8　③

問9　②

問10　④

問11　①

問12　③

◀解　説▶

問2　欠文挿入の問題では，欠文の分析が重要。欠文の冒頭に，「その安直な誘惑」とある。「その」という指示語に〝人の心をまどわす〟という意味をもつ「誘惑」が添えられていることから，直前に「普通ならば…したくなる」という表現のある【③】が正解とわかる。

問3　傍線部アの直前に，「ヒトと粘菌は共に生物」と述べられていること，そして垂水雄二の著作の引用部の中で「生物の魅力…多様性を貫く普遍的な原理が存在する」と述べられていることから，「すべての生物」の「共通性」に言及した④が最も適当である。

問4　傍線部イの前段落で，筆者は〈『粘菌』を下等〉・「我々を高等」と呼ぶことに疑問を提起した上で，「粘菌は我々より賢い」事例を取り上げている。これらの点から，ヒトが「下等だと見なしている生物」がもつ「高い能力」に焦点を当てた④が最も適当である。

問5　空所補充問題では，空欄前後の分析が重要。空欄X直後に「に立ち

返る」とあるため、本来の主題を探す。すると第一・二段落にて、〈「粘菌と自分たちの間に共通するもの」はない〉という「偏見」・「思い込み」が取り上げられていた。この点から、「偏見から逃れられない」ことを「問題」として記述している③が正解とわかる。

問6 傍線部ウ直前の仮定逆接「ても」を利用。この文法事項に基づくと、傍線部ウの内容はその直前部の「進化は進歩ではない」という、「進化」をマイナスに捉えた内容と対比的なものであると推測できる。これを踏まえると、「進化したケータイ」に対して「性能が優れている」とプラスの判断を下す「人々」に言及した②が最適とわかる。

問7 筆者は次段落で、傍線部エに関して「『進化』はそんな一直線の向上ではなかった」と批判している。ひるがえって、傍線部エは、ヒトが「一直線の向上」を見せた「進化」を意味すると考えられる。この論理的推測の結果に、「コンピューターを生み出し使いこなす」人間の進歩を表すとした⑤が最も合致する。

問8 傍線部オ内の「絶滅」が、二つ前の段落で言及されていることに着目。この段落内では、「絶滅」に関して「十二種のヒト属が…たった一つ…を除いて消滅した」と説明されている。その上で、「進化」に関して「一直線の進歩的な進化ではなかった」と、「ヒトの進化の図」をはじめとした通説を否定しているのである。この内容と一致するのは、③。

問9 傍線部カ内の「文字通り」から、「蒙を啓く」の辞書的な意味を問う設問とわかる。この表現の漢字を組み合わせることで「啓蒙」という熟語に行き着けたかどうかが鍵である。そして、この語の辞書的意味が〝知識のない人に教える〟であることを考慮すると、今までに「なかった視点」で「捉えるようになった」とする②が正解となる。

問10 この一文の主題が「自然選択」であり、空欄Ⅱの直後およびその次文末がいずれも「ではない」である点に着目する。これより、空欄Ⅰには「弱肉強食」と共通点がない「適者」が入るとわかる。さらに、この一文の主題である「自然選択」が、背後に「絶滅」をもつ「進化」であることを考えると、空欄Ⅱは「強者」が適切である。

問11 「これ」とは直前の段落の「理不尽な絶滅」のこと。喩えの直後の「『理不尽な』ルール変更が多くの絶滅の理由だったというのだ」が「吉川氏が述べようとしていること」である。②・③がこの内容にあたる。④・⑤は「理不尽」ではなく「公正」と考えるのは誤りだということだからこれらも当てはまる。①の「身体が大きい」はあくまで喩えであって、「ルール変更」による有利・不利はその都度違うのだから当てはまらない。

問12 「吉川氏の説」としては、傍線部キの段落以降に「『理不尽な』ルール変更が…絶滅の理由」「現実は努力と運の組み合わせ」とある。筆者の考えに関しては、傍線部イで「ホモ・サピエンスの優位」を否定している。また、注1で民話、注2で旧約聖書の話を引いているので、③が正解。①は「多様な例を挙げながら科学的に分析」が不適切。

2

出典 大澤真幸『近代日本思想の肖像』〈巫女の視点に立つこと〉（講談社学術文庫）

解答

問1 a―① b―③ c―③ d―④ e―⑤

問2 ②

問3 A―② B―④

問4 ④

問5 ③

問6 ③

問7 ⑤

問8 ②

問9 ③

問10 ②

問11 ④

◀解 説▶

問2 空欄Ⅰは、直後が柳田國男の著書の引用であるので、「たとえば」が適当。空欄Ⅱは、空欄の前後ともに「別当」と「馬頭観音」の間に介在すべき「距離」に言及しているため、「つまり」が入る。空欄Ⅲは、直前の「まぎれもない『真実』」を空欄直後で「誤っていた」としているので、「しかし」が適当。空欄Ⅳは、空欄後の内容が空欄前の結果に基づくため、「だから」が適当。

問3 A、空欄A直前の「ここ」は前段落の主題、すなわち「説話」の内容を指す。傍線部アに「ここ（＝説話）に、原初の社会学とでも呼ぶべき営みが記録されている」とあり、「社会学」としての「方法的な自覚を

未だに獲得してはいない」が、「今日の…と等価な働き」をしているのだから、②「先駆的」と言える。

B、空欄B直前には、「経験…世界の本当の姿を見るため」という目的が記されている。そして、この「見る」という目的に関して、空欄直後において「見ることを遮る」という手段を提示している。この「見る」と「遮る」が対義的な表現であることから、④「逆説的」が適当とわかる。

問4 設問文の「説話」に関する筆者の考えは、空欄Bの段落にて「世界の本当の姿を見るため」には「見ること自体から離れることが必要だ」と記されている。このことから、「説話」の巫女は、見ることから離れる役割を担っていたと考えられる。ゆえに「（実際に子供らを見た）村の人たちが意識していないことを表象」と述べた④が正解。

問5 傍線部イの冒頭に「つまり」とあるので、直前の「経験している世界の本当の姿を見るためには、…見ること自体から離れることが必要だ」の言い換えであることがわかる。また、空欄Xを含む段落に「経験の深層に到達するためには、…視点を離れ、…別の視点に移らなくてはならない」とある。以上に合致する③が正解。

問6 傍線部ウの次段落最終文の「兆候（病）が現象することになるわけだ」という記述が、本設問の要求と一致。そこで、その直前までの内容を読むと、「観音さまと親しく交わっても良い」ことを知っている「身体的な水準」を、「言語的な水準」が否定したことが別当の病の原因と書かれている。よって、正解は③。

問7 傍線部エの後に、「二種類の（社会的な）関係性が張られている」とある。「一方には、観音像を…離陸していないのである」と、「他方で、…規定するような関係のことである」の二種類である。この二種類の関係性を適切に説明している⑤が正解。

問8 選択肢内の「前者」は観音像を「相互反射的」に、「後者」は「超越的」に捉える考え方を指す。空欄ア・イは、各空欄直後の「相互的な反射」・「超越性」から判断する。空欄ウは、直前の「表面的な」が五行前の「後者の関係性」の説明で用いられることを踏まえる。空欄エは、ウとは「裏腹」であるため、「前者」。空欄オは、エ「前者」が「支え」るものであるため、「後者」。

問9 空欄X直前に「巫女だけが」とあることから、この段落における

「巫女」の定義を利用する。空欄X以降を見てみると、「巫女」の言動の説明として、「『人々はこれを意識しないが、しかし、これを行う』…行っていることを見ること」と記されている。この内容と③が一致する。

問10 設問の対象である「抑圧されている」は、最終段落で説明されている。具体的には、「他者の視点が、外的なままにとどまっている状態」であり、「自らが何を行っているのか、…を語ることができない」ことと定義されている。これらの定義を正しく含んでいるのは②。

問11 選択肢間の共通要素として、「土淵村の説話」を通した〈社会学する〉ことの定義がある。これに当てはまる説明があるのは空欄Aの段落。この段落の四行目の「要するに」に着目。この前後で、「一種の『社会学』」を可能にさせる「社会構造」が主題として取り上げられている。この内容と一致するのは、④。